

全国棚田(千枚田)連絡協議会 設立趣意書

急峻な山肌に組まれた堅牢な石垣群が古代遺跡を思わせる棚田(千枚田)。あるいは、なだらかに重なり合い曲線美を織りなす大小の棚田。天にも届く程に幾層にも重なり合い千枚田とも呼ばれる棚田は日本のいたるところで見ることができます。その景観の美しさは「田毎の月」などと表現され四季折々に日本人の心情に親しまれてきました。

また、その構築の見事さ、堅牢さにより日本のピラミッドとも称されますが、棚田は決して強大な権力の力によって出来たものではなく、名もない人々の手によって、日本の農の歴史と共に悠久の昔から築き上げられた「農民ピラミッド」ともいえるものです。起伏の多い日本の地形条件の中で、収穫を願い祈り、何代にもわたり切り拓かれ築かれた棚田は日本の美でもあり、農民の米への拘りから生まれた労働の集積、遺産とも言うべきものです。こうして生まれた棚田は、日本の水田の1割を占め、稲作文化を語るには欠かせないものです。

更に大切な事は、厳しく過酷な歴史の中で営々とねばり強く築かれた棚田は、治水利水の上で重要な役割を果たし、生態系を守り日本の国土保全、景観保全に無くてはならないということです。しかし、現実には、稲作の生産効率を追求してきたため生産効率の低い棚田は日本各地で休耕田となり、雑草に覆われ畦が崩れ無惨な姿となっている所を目にします。

このままでは、連鎖的な崩壊が始まり農林業の崩壊だけでなく下流域にまでわたる国土保全力の低下となり償いようのない損失を生じかねません。

このため、21世紀の農業、農村のあり方が求められている現在、日本の歴史的噴火遺産棚田を平成の時代に無くすことはできません。

今、棚田を有する市町村がネットワーク化を図り、お互いの情報・意見交換はもとより、棚田を活かした地域文化の発信、棚田を活かした地域活性化や人材育成、棚田ゆえにできる文化・科学イベントなどの提案、実施を積極的に行ってゆくため、ここに全国棚田(千枚田)連絡協議会を設立するものです。

平成7年9月 全国棚田(千枚田)連絡協議会

サミットが果たした役割

全国棚田(千枚田)サミットが日本で最初に開催されてから10年が経ちました。

サミットでは、市町村、団体、個人が互いに情報を交換し、交流を深め、棚田保全の意義や必要性をお互いに理解しあい、励ましあってきました。

各地域では、棚田保全を主眼とした農地整備や棚田米の生産に力を注ぎ、また様々な交流事業、体験事業が盛んになり、荒廃化が進んでいた棚田が地域活性化の資源として注目を集めるようになってきました。

さらに、「中山間地域等直接支払制度」、「棚田地域等緊急保全対策事業」、「ふるさと・水と土保全推進事業(棚田地域水と土保全基金事業)」など各制度・事業の成立は、全国棚田(千枚田)連絡協議会が毎年棚田サミットを開催し、全国的な棚田保全活動を展開していることが一つの動因となり、国や関係機関の皆さんからご理解、ご支援を戴いた成果です。

四谷の千枚田では、これらの事業のうち「直接支払制度」により集落協定を結び、交付金(10アール当たり12,000円)の支払いを受けています。

また、「ふるさと・水と土ふれあい事業」では作業道(景観道)、ふれあい広場、ぼったり、水車などが整備されました。(事業費2.08億円)

2005年全国(千枚田)サミット

開催年月日 平成17年9月2日(金)と3日(土)

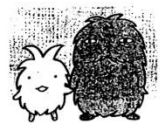
メインテーマ 「緑と水のオアシス」

四谷の

千枚田だより

第15号

千枚田に秋深まりて
一役を終えし空はさ
傾き残る 連合原田貞女



愛・地球博
AXPO
2005 AICHI
JAPAN



棚田サミット
2005 鳳来町
四谷千枚田

ふれあい教室

連谷小学校(児童数十八名)では十二月十一日(土)に千枚田で収穫した餅米で餅つき大会を行います。

餅つき大会には児童の親やお爺さん、お婆さんの三世代家族をはじめ、一人暮らしの老人や日頃お世話になっている地区の皆さんを招待して昔の遊びや物づくりなどを学ぶ「ふれあい教室」を開きます。

連谷小学校では千枚田を学習の場として田起こし、田植え、水管理、親子の案山子づくり、稲刈り、脱穀、餅つき(ふれあい教室)など一年間を通じて活用しています。

山津波の教訓を今に

四谷千枚田

地方と都市を結ぶホットライン・マガジン「でぼら」二十七号に見出しの記事が掲載されました。その内容

の一部を紹介します。

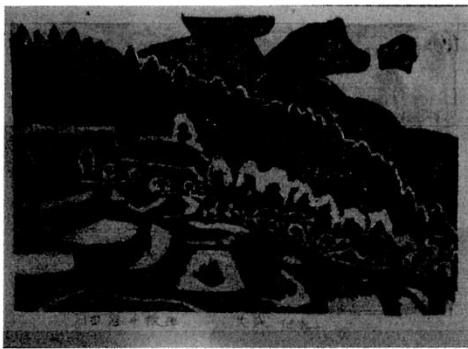
―子供達(連谷小学校の児童)は棚田を耕作する費用と収穫したお米代などの経済状況を調査した。ある農家をモデルに調べたところ。耕耘機や田植機等の費用(購入費の110)、苗代、肥料、消毒費等の出費が二十万四千五百円となった。それに対して収入は棚田で採れたお米代(市販のコメ代で計算)は二十三万四千五百円、農家のおばさんを訪ねて「一万円ほど儲かるよ」と報告したところ、「他に、モグラや蟹の穴を防ぐ波板を張ったり、イノシシ除けのトタンや電流を設けるので儲けはゼロだね。でも棚田があるから土砂や水害もないし、美味しいお米も食べられる。だから皆で守っていかねばならぬ」と喜んでくれたという。―

(掲載文抜粋)

版画展

保存会員の小山柳二さんは名古屋在住ですが、四谷の千枚田に魅せられ、にわか百姓になった一人です。

今では生まれ故郷の千枚田に居を構え、千枚田をライフワークに油彩画・版画の制作に明け暮れています。版画展は、鳳来町愛郷のレストラン「夢きこう」で千枚田を中心に十二月十二日まで開いています。



講演

十二月八日・九日に第三十六回食とみどり、水を守る

る全国集会「穂の国とよはしから、グローバル時代共生・共同の力で地域からの再生を」をスローガンにホテル日航豊橋で開催され、小山舜二が「四谷千枚田の保存運動について」講演します。

この集会は日本農業を守り、中山間地農業の大切さや環境保護・食の安全性確保などについて、全国からの参加者約1000人が交流する集会です。

保存会役員会

十月三十日、役員会が開かれ。景観保全整備活動等について決議しました。

「保存会員及び地区の皆さんへお願い」

県道沿線枝払い作業を十一月二十一日(日)に実施します。実施場所は真菰・松下地内です。保存会員はじめ、多くの方の参加(ボランティア)をお願いします。

当日はチェンソー、枝打ち道具などを各自持参して下さい。

お知らせ

十二月十二日(日)、ふれあい広場で千枚田を耕す会「田吾作」が有機・無農薬で栽培した餅米を使った餅つき大会を行います。



湧き水

あと、十ヶ月足らずでサミットだ。

段取りはいいかのおちおちしとれんぞん十ヶ月ばか、あつという間に来ちやうでのん：

行 平成十六年十一月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二